

もうかる漁業創設支援事業実証結果報告

【室蘭漁業協同組合Ⅱ】

実証期間:平成21年9月1日～平成24年8月31日(3年間)

平成20年9月に導入した1隻目の改革型漁船に続き、同船型の改革型漁船(沖合底びき網漁船140ト)を用船し、省エネ、省人、省コストを進めるため生産コストの抜本的な引き下げを図るとともに、漁獲物の高付加価値化などによる生産金額の向上を図り、地区漁協所属の沖合底びき網漁船全船(6隻)での共同操業実施による操業の合理化も併せて行うことにより収益性の改善を図るための実証事業を実施した。

実証項目

【生産に関する事項】

①省エネ・省人・省コスト化

(燃油消費量22.4%削減、乗組員16名→14名)

②第1船目の実証船と共通船型導入による建造コスト削減

③船内の居住・労働環境の改善

(船員室面積1.9㎡/人→2.6㎡/人)

【流通・販売に関する事項】

①漁獲物の高付加価値化

②漁獲物の衛生管理



実証結果 (実績値は3カ年平均)

【生産に関する事項】

①・省エネ船(船体、推進装置、発電装置)の導入及び共同操業により燃油消費量29.3%削減(従来船比)(1隻目22.6%)

・ロープ巻き取り機の導入などにより乗組員2名削減

・共同操業により漁場探索及び漁場利用の効率化

②鋼材価格の市場高騰により検証に至らず

③ILO基準に則した船員室面積(2.6㎡/人)を確保
空調設備の導入(従来船は暖房のみ)

【流通・販売に関する事項】

①・冷海水利用による活魚装置の導入により、活魚の平均単価は改革計画の目標単価比37%増(1隻目は28%増)

・韓国向けスケトウダラ発砲詰製品を生産。通常売り製品比2.5～3倍の単価で輸出

・コンテナ荷役方式の導入により魚体損傷軽減

②鮮魚等の木箱詰めをポリ函詰めに変更し、また海水滅菌電解装置の導入により衛生管理を強化

収益性の改善について

上記のとおり実証項目について、一定の成果を得た。その結果、3年間安定して償却前利益が得られた。(1年目償却前利益は得られたがスケトウダラの市場単価が大幅に下落したため改革計画の目標値には届かなかった。)また、3年目は水揚金額が事業経費を上回り1隻目に続き良い結果で終了した。

同地域では2隻の実証船の事業成果を受け、既に室蘭地区底びき網漁船全船において共通船型への代船が進み、平成24年9月より全船がコンテナ荷役方式を導入することとなった。引き続き水揚金額のプール制を取り入れ資源管理に努めつつ、本事業の成果を生かし地区全体としての収益性の改善を図るとともに、本取組みを他地域に普及啓発していく。